

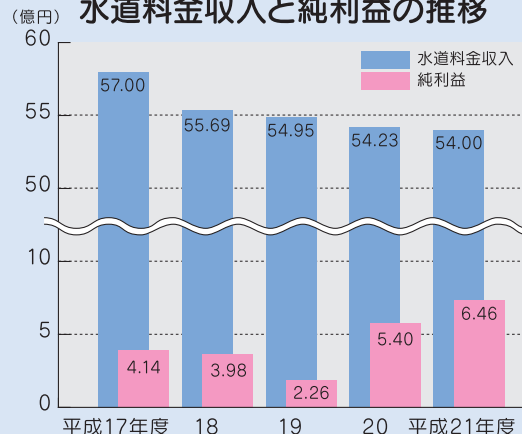
平成21年度会計決算状況のまとめ

水道事業

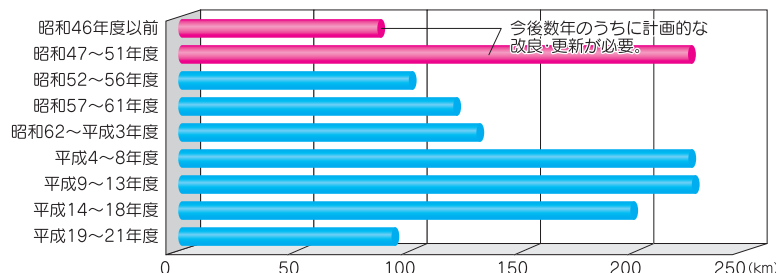
お客さまの節水意識の定着と節水型の水まわり機器の普及により、水道料金収入は年々減少しておりますが(前年度比2300万円減)、効率的な事業運営に努め、平成21年度は、前年度より約1億円多い6億4600万円の純利益を計上することができました。

今後とも、さらなる経営の効率化に努め、確実に到来する水道施設の大量更新時期に備えた財源の確保を図ってまいります。そして、計画的な施設や水道管の改良・更新事業を進め、将来にわたって安心してお使いいただき、皆さまからさらに信頼していただける水道をめざし努力してまいります。

水道料金収入と純利益の推移



水道管の年度別布設延長(5年毎集計)



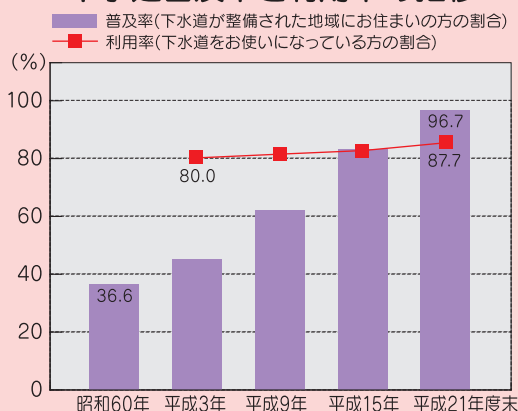
水道管を安全に使用できる期間は概ね40年といわれています。山形市では、人口の増加と市街地の拡大により昭和40年代後半に膨大な長さの水道管を布設し、まもなく40年が経とうとしています。それ以前に埋設されたものを含め、今後とも計画的な改良・更新を図ってまいります。

公共下水道事業

平成21年度より公営企業となり、企業会計に移行した初年度は、純利益として3億6900万円を計上することができました。

これまでは国からの借入れ等による多額の投資を行い下水道施設の整備を進めてまいりましたが、今後は施設の維持管理が事業の中心となります。公営企業の基本原則である「公共の福祉の増進」と「企業としての経済性の発揮」に基づき、快適な住環境の提供、水環境の保全・創造を進めるとともに、下水道の利用促進による事業収益の安定確保と、確実な財源に裏打ちされた計画的な施設の維持管理を図ってまいります。

下水道普及率と利用率の推移



下水道事業経営の財源について

公営企業は事業に伴う収益を財源に経営を行うことが原則ですが、公営企業が負担することが適当でない経費は一般会計が負担すべきと、国が基準を示しています。

下水道事業については、公共水域の水質保全、都市基盤の整備、公害の防止などといった公的な役割があることにより、お客さまからいただく下水道使用料だけに財源を求めることは適当ではないため、市の一般会計から資金が繰り入れられています。

水道・下水道事業の「純利益」の使われ方は?

水道・下水道事業の純利益は、「将来にわたって安定的に水道をお届けする」、「快適な住環境と水環境を将来にわたって守り続ける」ために、施設や水道管、下水道管渠の改良・更新の財源として蓄えられ、計画的に使われています。



山形市上下水道部

<http://www.suidou.yamagata.yamagata.jp/>

〒990-0836 山形市南石関27番地

電話 023-645-1177 FAX 023-645-1922

Eメール: info@suidou.yamagata.yamagata.jp